

医療とコミュニケーション

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野、英語分野、教養教育センター		
担当教員	藤澤 美穂 准教授、香川由美 助教、Robert Ken Asano 助教、塩谷 昌弘 非常勤講師、大関 信隆 非常勤講師、平野 順子 非常勤講師、八巻知香子 非常勤講師		
対象学年	1	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義 28 時間
期間	前期		

・学修方針（講義概要等）

対人援助においては、相手のところや立場、価値観等の理解と尊重が必要となる。本講義では、医療人にとって必要なコミュニケーションの基礎を扱う。

まず、あらゆるコミュニケーションのベースとなる「みること」「きくこと」「伝えること」の多様性について学ぶ。また障がいをもつ人々との情報交換のあり方も含め、医療現場で必要なコミュニケーションの種類とその心構えについて理解できるようにする。

コミュニケーションにおいては情報の収集と、それらの分類・理解、そしてそれらをしっかり受け止め、正しく発信することが必要となる。本科目ではそれらの実現のための基本的なことから学修する。また医療面接手法との関連もある、コーチングという対話の仕方について理解を深める。

本科目の学修を通じ、コミュニケーションの多様性と可能性の実態を理解し、医療人に必要なコミュニケーションの種類と方法の留意点を認識し、実践できるようになるための土台作りを目指す。

・教育成果（アウトカム）

1. 医療におけるコミュニケーションの基礎を学修することで、対人理解と対人援助のための基本的な知識と態度を習得できる。
2. 相手の状況を想像し、相手の立場に立った援助ができるようになる。
3. 他者配慮的態度を修得することで、チーム医療に寄与できるコミュニケーション能力を身に付け、実践することができる。（ディプロマポリシー：1、2、3、4、5、9）

・到達目標（SBO）

- (1) 医療人にとって必要なコミュニケーションについて基本的なことから説明することができる
- (2) 情報を正しく受け取り、わかりやすく伝達することができる。
- (3) 相手の自己肯定感を上げるコミュニケーションのポイントを理解し、実践することができる。
- (4) 障がい者のコミュニケーションの実態について理解することができる。
- (5) 意志、情報の伝達に必要な要素について説明できる。
- (6) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。
- (7) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることについて例を挙げて説明できる。
- (8) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。
- (9) 相手の心理状態とその変化に配慮した対応について、その具体例を説明することができる。
- (10) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。

・ 講義日程

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
4/17	金	3	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授 香川 由美 助教	<p>#1 オリエンテーション、医療におけるさまざまなコミュニケーション【双方向授業】【ICT (WebClass)】</p> <p>1.さまざまな現場や対象者（年齢、障がい等）とのコミュニケーションについて学び、その特徴を述べることができる。</p> <p>2.医療現場における「やさしいコミュニケーション」とは何かを考え、自分の考えを述べるができる。</p> <p>事前学修：どのような医療現場とコミュニケーションの特徴があるか、インターネット等で調べ、まとめる</p> <p>事後学修：講義資料を復習する。ワークをふりかえる。</p> <p>[C-1-2-3, C-1-3-1, D-2-1-1-1]</p>
4/23	木	1	心理学・行動科学分野 英語分野 心理学・行動科学分野	香川 由美 助教 Robert Ken Asano 助教 藤澤 美穂 准教授	<p>#2 やさしい日本語 医療現場の外国人、高齢者、小児への対応【グループワーク】【双方向授業】【ICT (WebClass)】</p> <p>1.外国人や高齢者、小児の患者が医療者とのコミュニケーションで困ることを述べるができる。</p> <p>2.「やさしい日本語」の背景と効果を学び、実践することができる。</p> <p>事前学修：事前課題に取り組む</p> <p>事後学修：ワークをふりかえる。</p> <p>[C-1-3-2,C-1-3-3, C-4-3-6,]</p>

4/30	木	3	教養教育センター 心理学・行動科学分野	塩谷 昌弘 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	<p>#3 宮澤賢治「やまなし」を読む</p> <p>1.宮澤賢治の童話「やまなし」について、コミュニケーションという視点から説明できるようになる。</p> <p>2.他者の発話の在り方に注意を向けられるようになる。</p> <p>事前学修：宮澤賢治についてインターネットなどで調べる。</p> <p>事後学修：講義資料を復習する。</p> <p>[D-2-1-1-1]</p>
5/7	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	塩谷 昌弘 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	<p>#4 宮澤賢治「眼にて云ふ」を読む</p> <p>1.宮澤賢治「眼にて云ふ」を読むことで、非言語的コミュニケーションについて説明できるようになる。</p> <p>2.詩を読むことを通して、他者への理解を深めることができる。</p> <p>事前学修：前回の講義資料を復習する。</p> <p>事後学修：講義資料を復習する。</p> <p>[D-2-1-1-1]</p>
5/14	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	塩谷 昌弘 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	<p>#5 宮澤賢治「永訣の朝」を読む</p> <p>1.宮澤賢治の詩「永訣の朝」について、コミュニケーションという視点から説明することができるようになる。</p> <p>2.他者（作者）の意図を考えられるようになる。</p> <p>事前学修：前回の講義資料を復習する。</p> <p>事後学修：講義資料を復習する。</p> <p>[D-2-1-1-1]</p>

5/21	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	塩谷 昌弘 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	<p>#6 宮澤賢治作品における動物と人間のコミュニケーションについて</p> <p>1.宮澤賢治作品に登場する動物と人間のコミュニケーションを読むことを通じて、自然との共生について説明することができるようになる。</p> <p>2.コミュニケーションの多様な様態について説明することができる。</p> <p>事前学修：前回の講義資料を復習する。 事後学修：講義内容を復習する。</p> <p>[D-2-1-1-1]</p>
5/28	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	大関 信隆 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	<p>自閉症児（ASD）のコミュニケーション【双方向授業】</p> <p>1.ASDの言語理解や対人認知、その他の認識の特長について理解できる。</p> <p>2.ASDと上手に関わり、安心して生活できる環境の作り方を提案できる。</p> <p>事前学修：1・2回目の講義資料を復習する。 事後学修：講義資料を復習する。 形成的評価：WebClassによる「理解度チェック」に取り組み、結果のフィードバックを受ける。</p> <p>[D-5-8-1]</p>
6/4	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	平野 順子 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	<p>#8 コーチング1：コーチングの概要【ワーク】</p> <p>1.コーチングとティーチングの違いを説明できる。</p> <p>2.コーチングの価値と可能性を理解できる。</p> <p>事前学修：「コーチング」についてインターネットなどで調べる。 事後学修：講義内容を実践する。</p> <p>[E-2-1-1-2]</p>

6/11	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	平野 順子 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	<p>#9 コーチング2：相手の話を聴く姿勢【ワーク】</p> <p>1.傾聴することの重要性を理解できる。</p> <p>2.傾聴の基本を実践できる。</p> <p>事前学修：前回の講義資料を復習する。</p> <p>事後学修：講義内容を実践する。</p> <p>[E-2-1-1-2]</p>
6/18	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	平野 順子 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	<p>#10 コーチング3：相手を認めるメッセージ【ワーク】</p> <p>1.相手を認めることの重要性を理解できる。</p> <p>2.自己肯定感を高めるメッセージを伝えることができる。</p> <p>事前学修：前回の講義資料を復習する。</p> <p>事後学修：講義内容を実践する。</p> <p>[E-2-1-1-2]</p>
6/25	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	平野 順子 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	<p>#11 コーチング4：相手の答えを引き出す質問【ワーク】</p> <p>1.質問の種類を説明できる。</p> <p>2.答えを引き出す質問をすることができる。</p> <p>事前学修：前回の講義資料を復習する。</p> <p>事後学修：講義内容を実践する。</p> <p>[E-2-1-1-2]</p>

7/2	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	八巻知香子非常勤講師 香川 由美 助教 藤澤 美穂 准教授	#12 聴覚障害におけるコミュニケーション【双方向授業】 1.聴覚障害者の言語理解や対人認知、その他の認識の特長について理解できる。 2.聴覚障害者が安心して生活できる環境の作り方を提案できる。 ゲストスピーカーによる講話を含む 事前学修：1・2回目の講義資料を復習する。 事後学修：講義資料を復習する。 [D-5-8-1]
7/9	木	1	教養教育センター 心理学・行動科学分野	八巻知香子非常勤講師 香川 由美 助教 藤澤 美穂 准教授	#13 視覚障害におけるコミュニケーション【双方向授業】 1.視覚障害者の言語理解や対人認知、その他の認識の特長について理解できる。 2.視覚障害者が安心して生活できる環境の作り方を提案できる。 ゲストスピーカーによる講話を含む 事前学修：1・2回目の講義資料を復習する。 事後学修：講義資料を復習する。 [D-5-8-1]
7/16	木	1	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	#14 相互尊重的なコミュニケーションの実現のために 【グループワーク】【双方向授業】【ICT (WebClass)】 1.相手の立場にたったコミュニケーションとは何かを考えることで、医療人となる自分が今後身につけるべき態度・技能は何であるか、述べるができる。 事前学修：これまでの講義資料を復習する。 事後学修：講義資料を復習する。 ワークをふりかえる。WebClassでの確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。 [CM-04, C-1-2-3, C-1-3-1, C-3-1-2, D-2-1-1-1]

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	スタディ・ナビゲーション	人間科学科・附属図書館	岩手医科大学	2026
参	人材育成で大切なこと 人の可能性を引き出すコーチングの真の価値	平野順子	Book Trip	2021

・成績評価方法

総括評価：ワークシート・レスポンスシート記載内容（50%）、確認テストの成績（10%）、期末レポート（40%）によって総合的に評価する。ワークシート・レスポンスシート記載内容は、シートに記載された内容および WebClass に入力・提出された内容を対象とし、初回講義で示す「ワーク評価基準」に従い評価する。確認テストは MCQ：多肢選択式問題を WebClass から出題する。期末レポートは共通 1 題＋選択式 1 題の、計 2 題を出題し、WebClass からの提出を求める。形成的評価：7 回目の講義にて WebClass より「理解度チェック」を実施し、理解度・到達度を確認する。理解度チェックの結果は WebClass からフィードバックする。理解度チェックの結果は成績には反映しない。

到達目標	DP	中間試験	期末課題	確認テスト	定期試験	発表	その他（ワーク）	合計
1～8	1, 2, 4, 5, 9		40				50	90
9, 10	3			10				10
合計			40	10			50	100

・特記事項・その他

ワークシート・レスポンスシートへの記載・入力内容については、内容に応じて翌回の講義内でフィードバックをおこなう。適宜 WebClass からもフィードバックをおこなう。

WebClass での確認テストを実施する回を設定する。結果は WebClass にてフィードバックする。

各回講義に対する事前学修の時間は最低 20 分以上を要する。

各回講義に対する事後学修の時間は最低 30 分以上を要する。

期末レポート作成のため 320 分間程度の時間を確保する必要がある。

期末レポートの締切は 8 月 7 日を予定するが受講生との相談により変更する場合がある。

期末レポート評価後に講評・解説等を WebClass にておこなう。

【その他】

・講義で身につけたさまざまなコミュニケーションの方法について、実生活・実習現場での応用を期待する。

・学生からの授業に対する質問・意見については、WebClass メッセージより随時受け付ける。

・授業内容に関する質問・要望は、翌回の講義にて追加説明をおこなう。

・ワークや確認テストの期日は、講義当日中を基本とする。

・成績開示方法：成績確定後、希望者には結果開示と講評をおこなう。

当該科目に関連する実務経験の有無 有：様々な領域の専門家による講義が含まれ、多様な価値観や広い視野に立った物の見方や考え方を学ぶ。保健・医療・福祉・学校臨床現場での実務経験をもつ臨床心理士・公認心理師有資格教員が、現場におけるコミュニケーションに関する実践例に基づきながら講義をおこなう回が含まれる。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (MacBook Air)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料の提示
講義	エルモ書画カメラ	1	講義資料の提示
講義	BD/DVD プレーヤー	1	講義資料の提示
講義	デスクトップ PC (iMac)	1	講義資料の作成